

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

No. 275
2019 JANUARY

100th

2019.つながる校友会、
ひろがる立命館

R Alumni

巻頭特集

育ち・ 育てやすい 社会を つくる

りつめい No.275 / 2019年1月号

発行所 / 立命館大学校友会 / 年4回発行

発行人 / 村上健治

編集人 / 加藤美佐子

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL: <http://alumni.ritsumeiji.ac.jp>

E-mail: alumni@st.ritsumeiji.ac.jp

ご連絡先の変更はこちらから▶



輝くひと

校友会設立
100周年
応援隊

シンクロスイマー

武田美保さん

(’99産社)

シンクロとともに

アトランタ・シドニー・アテネの3つのオリンピックで、銀・銅合わせて5つのメダルを獲得したシンクロスイマーの武田美保さん。武田さんは2018年に国際水泳殿堂入りを果たした。日本シンクロナイズドスイミング（現・アーティスティックスイミング）界から3人目という快挙だ。「多くの方に支えられ、目標点まで邁進できた幸せな競技人生でした」と21年の選手生活を振り返る。

武田さんが立命館大学に進学を決めた理由は2つある。実兄が中学から立命館に入学し親近感を持っていたことと、立命館大学に進学したシンクロの先輩から「競技と学業の両立のために親身になってくれる」と聞いたことからだ。この頃から在学中にオリンピックを目指す選手たちが入り始め、大学側も手探りのサポートだったが、試行錯誤を経て、今に続く文武両道を支援する受け入れ体制を確立していった。

現在、小・中学生のシンクロの指導している武田さんは、世界で戦う選手には身体的要素に加え、‘心の才能’が必要だと話す。「師である井村雅代コーチも言っていますが、目標に向かって課題を解決する力や、信念や執念、これらは本人にしかつくりえないもの。この才能は幼少期から関わる親や周りにいる大人によって育まれるものです」。かくいう武田さんも実母との関係が大きく影響したという。「母は言葉にできない気持ちも表情などから読み取り理解してくれる人で、幼い頃から私を支えてくれました。チーム内の人間関係に悩んだときには、『出るくいは打たれるけど、出切ってしまうば打たれることはない。だから突き抜けてしまいなさい!』とハッパを掛けてくれ、奮起したことを覚えています」。

選手を育てるには、自分の経験や価値観を押し付けるだけではうまくいかないと武田さんは感じている。「それぞれの個性に合わせた指導法を模索している日々ですが、教え子たちには私が感じたように『シンクロに出合えてよかった』と思ってもらいたい。欲を言えば、その中から日本代表のユニホームを着て表彰台に立つ選手が育ってくれたらうれしく思います」。

文：高原珠美 撮影：中尾歓都己



シンクロスイマー
たけだ みほ
武田美保さん（'99産社）

輝くひと
107

■ PROFILE

5歳から水泳を始め、7歳からシンクロナイズドスイミングに転向。1996年アトランタ、2000年シドニー、2004年アテネの3つのオリンピックで、銀・銅合わせて5つのメダルを獲得。2018年5月、国際水泳殿堂（International Swimming Hall of Fame）入り。現在、小・中学生を対象にシンクロの指導のほか、テレビでのコメンテーター等、活動の場を広げている。夫は現・三重県知事の鈴木英敬さん。2児の母。

立命館大学校友会報

りつめい JANUARY 2019
No.275

03 巻頭特集

育ち・育てやすい社会をつくる

02 輝くひと

シンクロスイマー
武田美保さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

株式会社オリオン&Beacon
渡邊久美子さん

12 立命館の研究者たち

総合心理学部 矢藤優子 教授
「科学的根拠に基づく子育て支援で
地域社会と連携」

14 「オール立命館校友会大会2018 in 仙台」報告

17 3.11復興への願い

18 校友会未来人育成基金

20 校友会設立100周年 Road to 2019 vol.11

21 校友会ネットワーク

行事報告
今後の行事予定

24 学生の活躍

26 キャンパストピックス

28 学園からのお知らせ

29 Club × Circle

30 INFORMATION
編集室から

※掲載内容は全て、2018年11月中旬時点のものです。
デザイン・ディライツ広告事務所

｜巻頭特集｜

育ち・育てやすい 社会をつくる

子育ては、“親が子を育てる”という一方的なものではなく、
親も子から教わりながらともに成長していく。
「親も子も育ち・育てやすい社会にしたい」と
自分の経験を生かしながら奮闘する校友たちを紹介する。

文：高原珠美 撮影：P3、P6-7 伊藤隆宗 P4-5 津久井珠美



「周りが自分のことを認めてくれない。そのように、人のせいにながら高校、大学と殻に閉じこもっていました」。そう話すのはNPO法人「D.Live」代表理事の田中洋輔さん。田中さんは高校時代に不登校、大学時代に引きこもりを経験。友人の支えで苦しい時期を乗り越えた田中さんの大きな転機の一つは就職活動だったという。「自分は何をしたいのか。行き着いた答えは『子どもたちに自分と同じようなしんどい思いをさせたくない』ということでした」。その結果、在学中にD.Liveを立ち上げることとなる。

D.Liveは勉強を教える場所ではない。自尊心（自己肯定感：良いところも悪いところもかけがえない自分として受け容れる気持ち）を育む場所だ。「雑談をしたり、ワークショップをしたりしながら、子どもたち全員が居心地の良い場所をつくっています。いわばお酒を出さない子どもたちのスナックといったところですよ」と田中さんは笑う。両親や先生、周りの大人たちに言えないことを心の風呂敷に包んで、「D.Liveで話すんだ」と子どもが言っていると保護者から聞く。「僕が一番苦しかったのは、自分の気持ちを吐き出せる場所がなかったこと。聞いてくれる人、理解してくれる人が身近にいただけで子どもたちは自尊心を高めることができる」。そう話す田中さんは活動を通じて子どもたちの背中を押すというよりも、F1レースでいうピットインのように、学校や日常生活の中で磨り減った子どもたちの心をメンテナンスし、再び走れるようにサポートする役割だという。

今の子どもたちは自尊心が低いといわれている。その理由の一つは核家族化だと田中さんは指摘する。家族以外の大人とのかわりも減ると「周りの大人たちに大切にされている」という感覚が減り、子どもの自尊心が低下するという。また、大人の自尊心の低下も見逃せないポイントだ。「原因の一つはSNSの普及です。良い面もありますが、SNSは他人との比較を生みます。子どもだけでなく、私たち大人も大きく影響を受けていて、自尊心が低くなる結果に。親御さんの自尊心が

低下すると子どもの自尊心も比例して低下するのです」。保護者向けの講演で田中さんはこう語りかける。「子育ては難しく、教科書通りにいかなくて当たり前。他人と違って当たり前。うまくいなくて落ち込むのはがんばっている証拠。だから自分を責めないで、自分で自分をそっと抱きしめてください」。

子どもたちと関わる中で大切にしているのは「チューニング」だという。「鼓動の速さが人によって違うように、望むことは子どもたち一人ひとり異なります。僕たち大人が“ド”の音が良いと思っても、本人が“レ”の音を希望するなら、“レ”を出せるようにサポートしていく。つまり大人の基準で子どもをコントロールするのではなく、子どもの思いや考えを引き出し、尊重していくということです」。そんな田中さんの楽しみは、子どもたちが元気になっていく姿を見ることだ。「不登校の子を持つお母さんが、泣きながら現状を話されることがありますが、僕はそれを聞きながらわくわくしています。なぜなら、その子には今より良くなる可能性しかないから。元気になっていく姿が僕にはイメージできるのです」。

「あなたがやらなくて誰がやるの」と保護者に言われ、不登校の子どもたちの支援も始めたというが、不登校の問題にコミットすることでD.Liveのミッションである「子どもがなりた自分に向かって思いやり取り組める社会をつくる」ことに近づいているのではないかと感じていると田中さん。「ありがたいことに全国からの問い合わせや講演依頼がとて多いです。うれしい反面、僕ら以外にもこの活動に取り組む団体がいないとまずいのではないかと危機感をもっています」と話す。

「自分の可能性をなめるな」。田中さんが子どもたちによく言う言葉だ。「おさんは天才です」。保護者によく言う言葉だ。「これらは僕の心からの言葉。僕は親御さんや子どもたち自身よりも、子どもたちの可能性を信じています」。そう断言して、田中さんは今日も子どもたちの横で笑っている。

ロケ地：草津川跡地公園（滋賀県草津市）

子どもたちの 自尊心を高める

NPO法人 D.Live 代表理事
たなかようすけ
田中洋輔さん（'09文）

PROFILE

プロ野球選手を目指し、強豪の高校へ進むも挫折し不登校に。浪人の末、立命館大学に進学するが引きこもり生活を送る。「自分のようなしんどい思いを子どもたちにさせたくない」と、2009年に「D.Live」を立ち上げ。小・中・高校生の居場所づくり、自尊心に関する講演等をびわこ・くさつキャンパス（BKC）や全国各地で行う。京都新聞にてコラム『よし笛』を連載中。滋賀県基本構想審議会委員。

子育て世代の父親3人で立ち上げた団体「MORIOKA コソダテオウエンプロジェクト」が子育て支援のアプリを開発した。団体の代表を務めるのは校友の村上勝俊さん。行政コンサルタントを本業とする傍ら、子育て支援の仕組みづくりに取り組んでいる。

村上さんは同志社大学文学部で心理学を専攻。その後、立命館大学大学院応用人間科学研究科に入学。在学中は診療所で心理士として、卒業後は認知症専門のデイサービスで介護士として勤務し、福祉の質向上のための研究を続けていた。現場で働いてみるとサービスの種類・質・賃金などの課題は見てきたが、国の制度を現場から変えることは予想以上に難しいことがわかったという。「改善には外部からの働きかけが必要」と感じ、福祉を専門としたコンサルタント業に転職。2011年、第一子誕生と東日本大震災をきっかけに自分が育った街で子どもを育てたい、復興に貢献したいと2013年、岩手県盛岡市に家族とともに帰郷。2016年に「ケイクラブ」を立ち上げ、独立を果たす。

本業で行政や地方自治体と関わっている村上さんが、常々感じていたのは「必要なところに情報が行き届いていない」ということだった。「子育てに必要な情報、地域に役立つ情報はそれぞれの媒体で発信されているが、子育てで手一杯の母親が、その情報を自ら取りに行くことは時間的にも手間的にも難しいのが実情。ならば、ニーズに合った情報を一カ所に集めたらよいのでは、とアプリを開発しました」。また、アプリで情報を受け取るだけにとどまらず、実際に子育て世代が集い、交流ができる場をつくりたいと「子育て応援サロン」を定期的に開催している。「転勤で移住する家族が多い盛岡市では身近に相談できる相手がおらず、孤立してしまう母親が増えています。それが児童虐待につながるケースも。アプリを入りに、サロンや行政のイベントを通じて仲間を増やしてほしい」と思いを語る。

地元の子育て世代の母親に、アプリで発信する情報収集の協力をしてもらっているが「母親の視点」に

は目を見張るものがあるという。「公園やお店などを実際に利用し、レポートしてもらうコーナーがあるのですが、そこで報告されるのは『この公園は新幹線が通る様子を見ることができるから電車好きの子におすすめ!』『子どもに合わせて食事を細かく刻んでくれてうれしかった』『お店に綿あめ機が置いてあって、子どもたちと一緒に楽しく遊べた』といった感動体験。一方、僕ら父親は『車は何台置けるか』『子ども用トイレはあるか』『近くにコンビニエンスストアはあるか』といったスペックの情報に偏りがちです。子どもの気持ちに寄り添い、子どもの目線で物事を考えられるのは母親の強みだと実感しました。このプロジェクトに関わり、より感じるのは父親・母親で得意・不得意分野があるということ。それぞれの視点を生かし、アプリコンテンツの充実を図っています」。

村上さんが独立したのはワーク・ライフ・バランスを重視した結果だ。「子育てにもっと関わりたいと思って。子どもの世話が忙しい時間帯は一緒にいて、子どもたちが寝てから仕事をするというような、もっと自由なライフスタイルを実現させたかったのです。もちろん、ほかの理由もありますが、家族との時間を大切にしたいというのが大きな理由です」と語る。自分の子どもに愛情が芽生えるにつれ、周りの子どもたちもかわいく思えるようになったと村上さん。「子どもたちにとってより良い環境にするためには、まず、親が子育てを楽しめる環境、子どもたちを育てやすい環境にすることだと思います。つまり、親の笑顔が子どもたちの笑顔につながっているということ。今、自分たちが問題と感じていることも、子どもが大きくなるにつれ問題でなくなり、新しい問題が見えてくるはず。だからこそ当事者であるうちに、できることをやり切りたい」と意気込む。MORIOKA コソダテオウエンプロジェクトにおける今後の課題は、自走で持続可能なサービスを提供することだという。「現在のアプリ利用者は約1,000人。子育て世代や企業をもっと巻き込んで、盛岡市が『子ども・子育て支援が地域文化のまち』となるように貢献したいと思います」。

撮影協力：村上さんご一家

当事者意識で 地域を変える

ケイクラブ株式会社 代表取締役
MORIOKA コソダテオウエンプロジェクト 代表
むらかみかつとし
村上勝俊さん（'05院応用人間）



PROFILE

2003年同志社大学文学部卒業。2005年立命館大学大学院応用人間科学研究科修了。第一子誕生と東日本大震災をきっかけに2013年に岩手県盛岡市に帰郷し、2016年に行政コンサルタント業の「ケイクラブ」を立ち上げる。MORIOKA コソダテオウエンプロジェクト代表兼務。

子どもたちに 生き抜く強さを

株式会社オリオン& Beacon代表取締役
渡邊 久美子さん（'89 経営）

株式会社オリオン& Beacon代表取締役の渡邊久美子さんは
東京都世田谷区で「まなびじゅく Beacon」を運営している。

同塾の特徴は小学校低学年から高学年、ときには中・高校生まで
同じ空間で学習をするという、学年を超えた寺子屋的な教室という点だ。

私が高校生だったころは、今と違って女性が男性と肩を並べて働くことがまだ一般的ではない時代でした。女性は短期大学を卒業して結婚する、もしくは地元の国立大学を卒業して公務員や学校の教員になるのが良いとされていた中、その考え方に疑問を抱いた私は、数学が得意だったこともあり、女性従事率が低い公認会計士になろうと、会計学も経営学も学べる経営学部に進むことに。地元の大学に入学することが親との約束だったのですが、高校の先生に「九州から出ていろいろな価値観に触れたほうがいい」と勧められ、両親を説得して立命館大学に入学することにしました。入学してからは「税務経理研究会」という税理士・公認会計士を目指すサークルに入会。簿記2級取得後、大学と並行して専門学校に通い、簿記や会計学の勉強を始めました。しかし数カ月で「数学は好きだけど、この緻密な作業は自分に向かないかも」と思うように。でも、無理を言って遠くの私大に通わせてもらっているのだから学費の元を取れるだけ学ぼうと、齋藤雅通教授の自主ゼミに参加するなど、進む道を模索しながらも勉学に励んでいました。そんな様子を見ていた友人に「何でそんなに勉強するの？」と聞かれ、「学生は勉強が本分じゃないの？」と返したことを覚えています。当時学んだ内容はすっかり忘れてしまいましたが（笑）、やるべきときに逃げずに勉学に取り組んだことは大事だったと

思っています。勉強の合間には家庭教師のアルバイトをしていました。当時の手帳を見返したら、生徒の点数や試験の攻略ポイントなどをビッシリ書き込んでいて、今と変わらないことをやっていたことに驚き、笑ってしまいました。

いろいろな子どもたちが集まる場所

卒業後はリクルートに入社し、短大・大学の広報コンサルティング営業をしていました。総合職として入社したので、やりがいにはありましたが、終電まで働いたり、土日も仕事をしたりとハードな日々でした。その後、結婚し夫の仕事の都合で転勤が多くなったため、仕事を辞め、子育てに専念することに。転勤先にある図書館では教育関係の書籍を読み漁り、子どもたちの良さを引き出す教育はなにかと模索しました。長男はシュタイナー教育、次男は山村留学とさまざまな教育を受けさせましたが、2人の子を育てて感じたことは、子どもは思い通りにならないということです。親が良かれと思って、子どもに合わないこともある。逆に「なるほど、そうきたか!」と想定外の発想や言動に驚くこともある。だから、自戒も込めつつ「子どもは親の所有物ではない。子どもが伸びたいように成長する手助けをするのが親の役目」と思い、生徒の保護者にもそう伝えるようにしています。子育てが落ち着き始めたころ、幼児教育関係の仕事をしていた知人から声が掛かり、少しずつ仕事を再開していき





▲ 知人がつくってくれた塾の看板

ました。次男が中学に入るタイミングで「まなびじゅく Beacon」を開室。当初はワンルームにちゃぶ台を置いて、小学生の子どもたちが宿題を持って集まり、わからないところを私が教えてあげよう、といった気楽な感じで運営していました。そうするうちに生徒のご家族から中学受験を見てほしい知人がいると相談を受け、「できる範囲で良ければ」と受験生を受け入れることに。そのような紹介で生徒が増えていき、現在は小学生から高校生までの約40人が通っています。Beaconには小学生で高校生レベルの勉強をしている子から、高学年でも九九が覚えられていない子、生活保護を受けながら公立に通う子、私立やインターナショナルスクールに通う子など、学力や経済状況、家庭環境もバラバラな子どもたちが集まっています。まるで社会の縮図のような教室ですが、そんな中だからこそ自分とは違う価値観を理解したり思いやりを学んだり、人間としての成長があると考え、あえて隔たりを設けず、混ぜこぜにしています。そして、その雑多な中から自分が必要なことを選び取るためのアンテナを立てられる人間に育ってほしいと思っています。

子どもの人生は子どものもの

集まる生徒は不思議と年によって傾向が変わり、不登校の子が多い年もあれば、高レベルの受験一色の子どもたち

が集まってくる年もある。ここ最近は、発達障害（非定型発達特性）に近いグレーゾーンの子どもたちが増えています。一見すると他の子と変わらないけれど、ものすごく努力をしているのに結果がついてこなかったり、会話がちぐはぐだったりで「あれ？もしかして……」と気づくこともあります。そのような場合は親御さんに現状を伝え、話し合う中で受験対策ではなく、大人になっても自活できるよう専門技術を学べる学校を目指すなどに舵を切ることもあります。得意分野ではものすごく力を発揮できるものの、苦手分野はお手上げという「でこぼこ」が大きい生徒に対しての指導法は奥が深く、難しい。これまでの私の当たり前が通用せず、もがきながらも目から鱗が落ちることばかりで目下勉強中です。

親御さんと接していて悔しい思いをすることもあります。それは、自分の見栄や世間体で子どもの進路や将来を決めてしまわれるときです。親の価値観や親にとっての‘普通’という枠に当てはめることが子どもにとって幸せとは限らないのに……。ですから、ある程度の年齢で理解できる生徒には「経済状況など自分でどうにもできないことは配慮しないといけないけれど、それ以外では、あなたの人生は親のものではなく、あなた自身のもの。だから、あとで後悔しないように自分の意見は主張したほうがいい」と伝えています。それと同時に「自分で選ぶということは、自分で責任をとるということ。『もしかして違うかも、失敗するかも』と心配になるかもしれないけれど、いつでも、いくらでも修正はできる。だから自分で考え、自分で決断し、実行できる力をつけなさい」と話しています。



▲ OB・OG会にて服部教授と同級生と一緒に

道を照らすしるべとして

所属していた服部泰彦教授ゼミのOB・OG会が毎年京都で開催されています。仕事の繁忙期と重なって、私はなかなか参加できなかったのですが、2年前にやっと顔を出せ、お世話になった先生や旧友たちと楽しいひとときを過ごしました。私の席は長老席と呼ばれる先生と同じテーブルだったり、話していた後輩たちは息子と同じ歳だったり、自分の年齢を改めて自覚しましたが（笑）。また、5年前には大学時代に仲が良かった友人たちと「京都思い出ツアー」を開催。去年2回目も行いました。きっかけは家族ぐるみで仲良くし

ていた知人が急死したこと。元気なときに動かないと二度と会えないかも……。と、25年ぶりに京都で落ち合いました。衣笠キャンパスを訪れ、当時なじみだったお好み焼き屋でご飯を食べて、それぞれの下宿先を巡って……。一気に学生時代へとタイムトリップし、気持ちが若返ったように思います。

私が学生時代に教わった中で記憶に残っているのは「活字は疑ってかかりなさい」という齋藤先生のお言葉です。「いろいろな人がそれぞれの立場で発言をしているから、マスメディアが発信していることも、必ずしも正しいとは限らない。周りが言っていることを鵜呑みにせず、自分で正しいと思うことを都度ジャッジしながら情報に向き合いなさい」という教えは、今でも私の軸となっています。

生徒から「なぜ勉強しないといけないの？」と問われることがあります。私は「したくなかったらなくていい。けれど、知らないと損することもあるし、学んでいく中でふと気づくこ



▲ 卒業式にゼミの仲間と渡邊さん（中央列左から3番目）



▲ とある日の授業風景

ともあるんだよ」と話しています。私は成績を上げるためだけに勉強を教えているのではありません。人間として生き抜く強さを、学びを通して教えたいと思っています。そのために私ができることは何か、どんな言葉を掛け、どう導き、寄り添っていけばいいか。そのことを第一に考え、指導をしています。塾名の「Beacon（灯台・目印となる場所）」のように、子どもたちが人生に迷ったときには、道を照らすしるべとなるように、必要とされる限りここで光を発し続けたいと思います。

夫も校友で、時間が合うときは
校友会のイベントに参加をしています。
年齢も活動フィールドも多彩な方々と
ご縁をいただき、力になってもらっています。

PROFILE

株式会社オリオン& Beacon
代表取締役

渡邊 久美子 さん

株式会社リクルートにて短大・大学の教育広報コンサルティングの営業を担当。チャイルド・ファミリーコンサルタント事務局にて企業内育児教育やワーキングマザー支援プログラムの企画、キッズニア準備室運営などにかかわる。株式会社オリオン& Beaconを設立し、2010年、東京都世田谷区に「まなびじゅくBeacon」を開室。小・中学生向けの学習教室、中学・高校受験対策、個別指導などを行っている。



科学的根拠に基づく子育て支援で 地域社会と連携

人は、人生の各時期にそれぞれ固有の困難に直面するものだ。矢藤優子教授の関わるプロジェクトでは、幅広い分野の専門家が共に研究することによって、人生の各時期に起こる困難に対する科学的根拠に基づく援助の方策を見出し、社会で実践することを目指している。

親子の「関係」を 定量化する

矢藤教授がプロジェクトリーダーを務めるのは、立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）の研究プログラムの一つ。「学融的な人間科学の構築と科学的根拠に基づく対人援助の再編成」をテーマに、人生の各段階を、乳幼児期・児童期・青年期・壮中年期・老年期に分け、それぞれの時期における援助のあり方を研究するものだ。各時期に焦点を当てるだけでなく、人生全体を通して考えるべき問題も同時に取り上げることによって、新しい科学的根拠や効果的な支援のあり方を見出し、実践することを目指している。

乳幼児期を担当とする矢藤教授のグループが研究の主なターゲットにしているのは、乳幼児の社会性、つまり人と関係を結ぶ力だ。「人間にとって一番大切なのは社会性だと思います」。乳幼児

にとつての主な人間関係とは、親との関係。矢藤教授の研究は、数値化しにくい親子の関係性を定量化することによって、どのような要因が子どもの社会性を育てるのかを探り、結果を子育て支援に生かすというものだ。「長年の研究の中で、多くの親子を見てきました。思い込みや自分の経験だけをもとに育児をしたり、逆に特定のメソッドを盲信したりするなど、根拠がないまま育児が行われている。心理学の研究者として、どうすることが子どもにとって本当に良いのかを、きちんとしたデータで示したいと考えたのです」。

他分野の専門家も参加して 開発された「かかわり指標」

親子関係を定量化する方法の一つとして筑波大学安梅勲江教授とともに開発されたのが「かかわり指標」というものだ。親子が日常会話やゲームなどをし

ている様子を観察し、「目を合わせるか」「言葉のやりとりがあるか」「親はほめているか」など、設定された項目にあてはまる行動があったかどうかを得点化する（図1）。保育園などの現場で利用する実践用なら、わずか11項目の観察で、共感性、主体性、応答性など、社会的な能力の中の基本的な要素を、得点によって定量化できる。研究用にはより詳細な81項目が用意されている。

開発にあたっては、小児科学や保健福祉学など幅広い領域の専門家が参加した。「さまざまな学問領域からのアプローチにより開発されています。たとえば、共感性や運動制御に関する項目によって、自閉傾向やADHD（注意欠陥・多動性障害）などの障害を早期発見することも可能になります。子どもの障害を早期に発見し、適切な支援を受けることは、親子関係の中で生じる問題を防ぐことにもつながります」。

「かかわり指標」は、現在、近畿各地の家庭裁判所で、離婚調停中の親子関係を判断する重要な根拠の一つとしても採用されている。「以前は調査官の印象が主な判断材料だったのですが、科学的根拠のある評価基準ができたことで、判断の揺れがなくなりました」。

また、この指標は中国の農村部で、両親がそろって都会に出稼ぎに行くため親と離れて暮らす「留守児童」の研究にも利用されている。同じように両親と離れても、健やかに育つ子とそうでない子がいる。その背景を探るのだ。離れた時期、連絡の手段や頻度など、さまざまな要因を調査し、結果をもとに、いつ、どのような支援をすれば良好な関係性が保てるかを提言する。「科学的根拠に

総合心理学部

矢藤 優子 教授

基づく提案なので、説得力があるのです」。

行動そのものを定量化することによって幼児の社会性を評価する方法も開発した。デジタルペンを用いて絵や字を書いてもらい、そのプロセスを分析するというものだ（図2）。私たちは、手の動きのスピードを制御しながら字を書いている。その制御能力の発達を、書く速度や筆圧、軌跡のストローク情報の正確な測定・記録によって分析し、ADHDや脳損傷の診断につなげることが可能となる。

地域に還元できる研究を 長期的に続けていきたい

矢藤教授のプロジェクトは、人生全体をシームレスに見て、その人に必要な支援を目指すものだ。それによって、たとえば、乳幼児期の社会性と青年期のキャリア形成との因果関係に科学的な根拠を見出すことも可能となる。「青年期に起こる問題を、青年期に解決するという考え方から、より早期に問題を発見し、早期に介入を始めようという考え方へ、この研究は社会の意識を変



Profile

Yuko Yato

2001年 大阪大学大学院人間科学研究科 博士課程後期課程 修了
2005～2011年 JST 社会技術研究開発センター 計画型研究開発 研究員
2007～2016年 立命館大学文学部心理学専攻 准教授
2012年9月～2013年3月 パリ第8大学 LUTIN-Userlab 客員研究員
2016年2～3月 ジョージワシントン大学 客員研究員
2016年4月～ 立命館大学総合心理学部 教授

える可能性があると考えています。非婚化やひきこもり、ニート対策に対し青年期にコストをかけるより、乳幼児期や児童期に社会性を育てる教育をした方が効果的かもしれないのです」。

矢藤教授の研究は、「地域・社会連携」を教学コンセプトに掲げる大阪いばらきキャンパスで「いばらきコホートプロジェクト」として、茨木市との連携のもと、地元の親子の協力によって進められてい

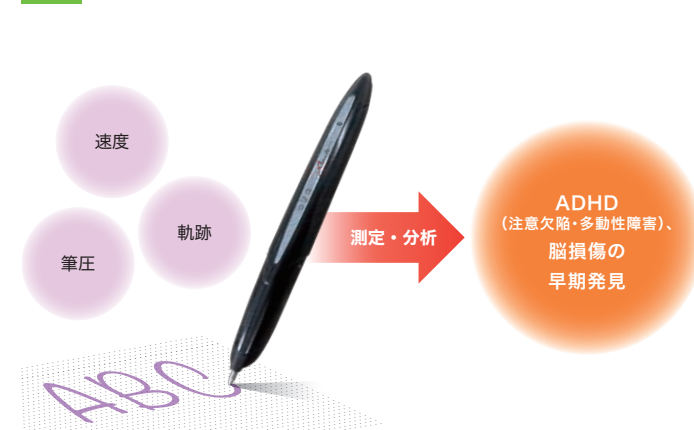
る。調査の中で産前・産後うつが発見された時は、茨木市「こども健康センター」との連携によって、早期介入することも可能となる。

矢藤教授は話す。「研究のための研究ではなく、研究と支援を同時に行いたいと考えています。胎児期から調査してきた子どもが、今、生後6カ月になりました。今後も長期的にデータをとり続け、成果を地域に還元していきたいです」。

図1 「かかわり指標」を利用した親子関係の定量化



図2 書く速度や筆圧などを正確に計測できるデジタルペン



大阪いばらきキャンパスでの調査の様子

北海道・東北の食、酒、祭りで賑わう1日

「オール立命館校友大会

2018 in 仙台」が開催されました！



仙台駅企画

JR仙台駅では中央改札広場を立命館一色に染め、立命館の最新の研究内容を紹介する展示や立命館発祥の「京都」に縁のある物産展を行いました。通行人は足を止め、研究内容についてスタッフに質問をしたり、物産を買い求めたりする姿が見られました。



ウェルカム企画



仙台国際センターの野外の展示棟前広場で、秋田市竿燈会による「竿燈まつり」実演と仙台育英学園Team若獅子による「よさこいソーラン」演舞が披露され、迫力ある祭りの様子に観客は大きな歓声と拍手を送っていました。



立命館アカデミック企画

笑う門には福来たる

能楽師狂言方大蔵流の名門、茂山千五郎家一門による狂言「附子」「蝸牛」が披露されました。プレ企画として狂言装束の着付け実演や、本公演前には茂山逸平さんによる狂言の鑑賞ポイント解説が行われ、会場は演目披露の前から笑いの渦に包まれました。



10月20日(土)、宮城県の仙台国際センターとJR仙台駅にて「オール立命館校友大会2018 in 仙台」が開催され、延べ1,200名が参加。祭りの実演、お酒の振る舞い、おにぎり食べ比べをはじめ、北海道・東北らしさあふれるにぎやかな大会となりました。



経営学部校友会 第1回セミナー

～世界に誇る日本の食文化～

株式会社美濃吉の代表取締役社長・10代目当主の佐竹力総さん(70法)による「世界に誇る日本の食文化」の講演が行われました。佐竹さんは日本料理の歴史や特徴、京料理の文化について解説し、参加者は興味深く話を聞いていました。



食マネジメント学部 出張授業

2018年4月に開設された食マネジメント学部の石田雅芳教授による出張授業が行われました。石田教授は「東北とスローフード」と題し、東北の食文化とスローフードについて解説。講演後、参加者からの質問が相次ぎ、大学の授業さながらの様子でした。



100年目への挑戦状～ちょっと今から大学の友達つくって～

若手校友対象の「100年目への挑戦状～ちょっと今から大学の友達つくって～」では北海道・東北のご当地鍋を味わった後、立命館オリジナルのリアル脱出ゲームで交流を深めました。女性校友対象の「杜の都の立女(りつじょ)さろん」ではフラガールの鑑賞や匂い袋・数珠づくりの体験企画など、「五感で楽しむ」をテーマに開催されました。



▲ 女子会オリジナルパフェ

▲ 京都「香老舗 松栄堂」による匂い袋づくり

▲ 宮城「円通院」による数珠づくり



▲ 100年目への挑戦状

▲ 杜の都の立女さろん

R Future Cafe

R Future Cafeではステージ企画やパネル展示企画が目白押し。10月28日(日)に行われた「杜の都全日本大学女子駅伝」の応援企画として、株式会社アシックスの田崎公也さん('93経済)と女子陸上競技部OGの小島一恵さん('10経営)によるトークセッションを開催。陸上男子100メートル走で日本人初の9秒台を記録した桐生祥秀選手や小島さんのシューズ開発を手掛けた田崎さんは、シューズを通じて選

手の力になりたいという「裏方」としての気持ちを、小島さんは周囲の応援を力に走り続けたという「選手」としてのエピソードを語りました。同会場で開催された北海道校友会企画の「ばんえい競馬ゲーム」では豪華賞品をかけ、大いに盛り上がりました。パネル展示では、SDGs(持続可能な開発目標)に取り組む学生の社会問題解決へのアプローチに対して関心を寄せ、学生たちと交流を図る校友の姿が見られました。



総会・懇親会 ～ R Festival ～



約1,000名の校友が一つの会場に集まり、総会・懇親会が行われました。総会は青森県今別町の「荒馬まつり」で幕開け。立命館大学のサークル「和太鼓ドン」の現役学生とOB・OG、祭りの地元の大川平荒馬保存会が協力し、迫力のある「荒馬踊り」が披露され、演舞の後には保存会の方より「これからも立命館の学生たちと絆を深め、伝統的な地元の祭りを次世代につなげていきたい」と語られました。懇親会は、北海道・東北8校友会の役員らが出演したダンスムービーからスタート。これは、映像学部3回生の上田純平さん(写真右上)をはじめとした5人の現役学生が映像製作を、ダンスの振付考案は振付稼業air:manの杉谷一隆さん('94経済)、映像監修はAOI Pro.の加藤久哉さん('02文)が担当と、学生と校友がコラボレーションをし、実現したものです。また、会場には各県の選び抜かれたお米やお酒、食材を使った郷土料理が振る舞われ、参加者は北海道・東北の味に舌鼓を打ちました。



来年は、いよいよ「100周年記念オール立命館校友大会」。2019年10月19日(土)、京都でお会いしましょう!

3.11 復興への願い

防災シンポジウム

1000年に1度をわがことに ～災後をともに生きる～を終えて

立命館大学校友会は、2011年3月11日の東日本大震災発生後、同年6月27日に東日本大震災復興支援特別委員会を発足し、現地のニーズを踏まえながら組織的な復興支援事業を行ってきました。今大会では、東日本大震災の教訓を未来に生かすべく、防災シンポジウムを開催。約300人が参加し、災害に関する備えの意識を高めました。

防災シンポジウム

第1部は、自ら被災するなどした岩手・宮城・福島
の校友と大学関係者による防災シンポジウムを開催し、久保田崇氏(立命館大学災害復興支援室副室長兼公務研究科教授)、佐々木靖子氏('76文)、村田恭一氏('81法)、西崎芽衣氏('17産社)らが登壇。震災の教訓を語り合い、防災・減災の要点を確かめました。

第2部は、防災食として開発した缶詰を披露。宮城県の女川漁港で水揚げされたさんまを素材に、木村長努氏('77経済)が経営する宮城の水産加工品メーカー「木の屋 石巻水産」が仕上げた缶詰で、味付けは高橋拓児氏('91法)が代表を務める京都の料亭「京料理 木乃婦」が監修しました。当日は試食もあり、参加者は食料備蓄の大切さを考えながら味わいました。なお、シンポジウムや試食の様子はメディア取材もあり、TVのニュースや新聞にも取り上げられました。



コーディネーター 大泉大介氏('95国関)

左から久保田崇氏、佐々木靖子氏、村田恭一氏、西崎芽衣氏



熱心に話を聞く参加者

さんまの缶詰(実山椒・梅)を手にする
木村長努氏(左)と、高橋拓児氏(右)

参加者の感想

- ローリングストック*をする等、防災を考えるきっかけとなった。
※定期的に消費し、食べた分だけ買い足していく備蓄方法
- 立命館の校友のつながりで、このような防災食がつくられたのは、素晴らしいことだと思った。

缶詰を試食した方の感想

- 大人だけではなく、子どもにも食べやすい味付けになっていますね。
- 優しい味なので、毎日食べても飽きがきません。

防災食(缶詰)の開発

「日頃から災害への備えを意識し、復興への歩みを風化させない」ことを目的として、校友大会にあわせて防災食(缶詰)共同プロジェクト『KINOBUYA PROJECT』を発足。口に入れるとほっと心が安らぎ、おいしく栄養たっぷりの「KINOBUYA PROJECT さんまの缶詰」(実山椒・梅)が完成しました。

KINOBUYA PROJECT

立命館の校友ネットワークを生かした共同プロジェクト



刺身でも食べることができる鮮度のさんまを丁寧に手詰め



何度も試作を重ねて調合したタレを入れる



缶詰のパッケージを巻く

「KINOBUYA PROJECT さんまの缶詰」(実山椒・梅)は、株式会社木の屋石巻水産WEBサイト、またはお電話にてご注文可能です。

TEL ☎ 0120-05-1237 (受付時間 9:00～16:00 ※土日祝除く)

限定品につき、数に限りがございます。完売となった場合はご了承ください。収益の一部は、宮城県の「子どものたより場応援プロジェクト」に寄付いたします。

木の屋石巻水産WEBサイト



完成品2種類

実山椒

梅



支援とともに広がる 校友と学生のつながり

TOPICS

01

「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト」の 事後研修合宿が行われました！

9月21日（金）から22日（土）にかけて、衣笠キャンパスにて「+R校友会未来人財育成奨学金（海外留学支援）」を活用した短期海外留学プログラム「グローバル・フィールドワーク・プロジェクト（ベトナムコース）」の事後研修合宿が開催されました。この留学プログラムは、渡航先であるホーチミンで約1週間を過ごす間、現地のホーチミン市人文社会科学大学の学生バディ^{※1}とともに、事前に設定した研究テーマに基づいてフィールドワークを行うもので、制度が始まって2年目の2018年は55名の学生が参加しました。

フィールドワークは2～3名の小グループになって行われ、「食文化」「旅行者意識」「歴史」「環境意識」などのカテゴリーを独自に設定し、現地での滞在期間中に学生バディとともに調査を進め、帰国後にこの事後研修合宿で調査結果をすべて英語で準備して発表します。学生はこの2日間、衣笠キャンパスのセミナーハウス（西園寺記念館）に泊まり込み、夜を徹してプレゼンテーションをまとめあげました。発表の最後に校友会の支援に対する感謝が述べられ、プログラムへの参加動機として、費用面での参加のしやすさが気持ちを後押ししたことを多くの学生が語っていました。

会場には、校友会未来人財育成基金募集推進特別委員会の初村雅敏副委員長と、大阪校友会副幹事長でRFS^{※2}の古角博子さんが出席。最終発表の後に講評を行い、この経験を次の学びにつなげてほしいという激励の言葉と、卒業後はぜひ後輩学生を支援する側にまわり、この循環型の支援文化の担い手になってほしいと、未来の校友への期待が伝えられました。

※1…現地受け入れ大学の学生

※2…校友会未来人財育成基金の理念に共感し、共感の輪の拡大に向けて積極的な呼びかけを行うサポーター



TOPICS

02

+R校友会未来人財育成奨学金受給学生と 校友会三役・常任幹事の交流会を開催しました！

9月29日（土）朱雀キャンパス1階カフェテリアにて、校友会未来人財育成基金を活用した「+R校友会未来人財育成奨学金（成長支援）」の受給者による交流会が開催され、校友会26名・学生40名の計66名が参加しました。



村上健治校友会会長より「この基金には現役の学生を応援したいという先輩校友の思いが詰まっています。貴重な学生時代をより豊かなものにして頑張してほしい」と受給学生を激励しました。

交流会では、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス（BKC）、大阪いばらきキャンパス（OIC）それぞれを代表する学生が、独自のアプリ開発や日米学生会議への参加など、多種多様な取り組み内容について報告を行いました。

最後は、校友会未来人財育成基金募集推進特別委員会の委員長である林幸雄校友会副会長の「卒業後は校友として、ぜひ後輩を支援する立場として校友会未来人財育成基金に協力いただき、循環型の後輩支援文化を一緒につくっていきましょう」という、未来の校友への期待の言葉で締めくくられました。

“未来を切り拓く人財育成”のために「母校・後輩支援」にご協力ください！ 校友会未来人財育成基金へのお申し込み方法のご紹介

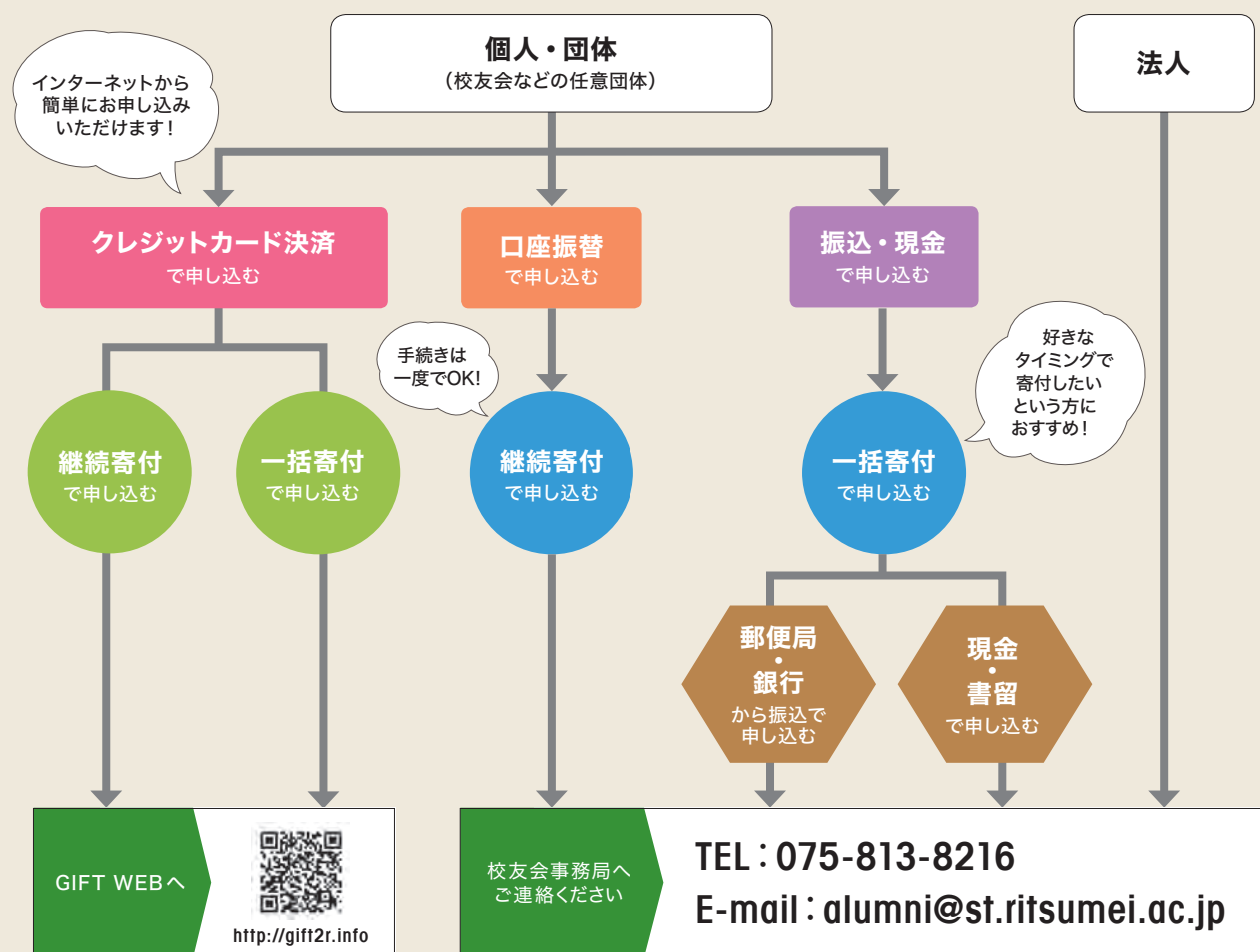
POINT

- ① ひと口1,000円からご支援いただけます。
- ② 簡単・便利なクレジットカード決済が可能です。
- ③ 税制上の優遇措置を受けることができます。

詳しくは、下記のお申し込みの流れと募集要項をご覧ください。

校友会未来人財育成基金 お申し込みの流れ

ご希望される寄付の方法によって、お手続きが異なります。



募集要項

■ 寄付の金額

(1) 個人・団体（校友会などの任意団体）の場合
ひと口1,000円からご支援いただけます（一括寄付と継続寄付[毎月・年2回・毎年]のどちらも可能です）。

(2) 法人の場合
ひと口の金額は特に定めておりません。

■ 募集期間

期間に定めはありません。

■ 寄付の目標

継続寄付者3,000名・累計10億円。
(2012年～2020年3月31日)

■ 活用プラン

海外留学支援、成長支援、課外活動支援、研究支援、施設整備支援。

■ 税制上の優遇措置について

本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

お問合せ先
(受付時間 土日祝を除く 9:30～17:00)

校友会未来人財育成基金に関しては

立命館大学校友会事務局
075-813-8216

寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては

立命館 総務部 寄付事務局
075-813-8110

volume 11

躍進する女性校友

大学がそうであったように、校友会は男性のものという時代があった。
母校愛を原動力にそんな常識に挑み続けた、女性校友の歩みをたどる。

■女子学生の歴史は戦後から

京都法政学校を前身とし、男女別学が基本であった時代にスタートした立命館。本格的に女性に門戸を開くのは文部省が共学制実施の方針を定めた戦後になってからで、1946年、旧制大学に3名と専門学校に1名が、1948年には新制大学の1期生として7名が入学している。とはいえ、女子学生数は全体の0.3%程度。カリキュラムや設備は女子学生を想定したものではなかったことから苦労が多く、またさまざまな事情で卒業に至らぬ者もいた。その分女子学生同士の結束は固く、卒業後も密に連絡を取り合い、男性に負けない母校愛を誇っていたという。

■校友大会に集う初期の女性校友

1966年、法学部女子卒業生の同窓会が春の校友大会に合わせて開催された。1955～1963年卒の京都在住女性校友5名が準備委員を務め、当日は対象者の約3割に当たる30名が参加した。校友会において、女性校友の同窓会が呼び掛けられるのは初めてのことであった。同年秋の校友大会ではこれを発展させる形で全学部の女性校友を対象とした女子卒業生懇親会を開催。以降、春秋の校友大会に合わせて開かれる恒例行事として定着し、女性校友同士が縦横に交流する機会となっていく。

学園新聞・校友特集号に掲載
(1966年5月12日付)



■組織化と地域のネットワーク

初の女性校友組織である女子同窓会が1977年に結成される。結成総会には約40名の女性校友が集い、会長には新制大学の1期生であり、女性校友で初めて弁護士となった北村春江('52法)が就任した。こうした組織化はやがて地域単位でも進む。男女雇用機会均等法施行から3年後の1989年、女性の地位向上を目指して関西地区女子校友会が発足。また同じ頃から、宮城県支部においても女性校友の集いがもたれるようになった。



関西地区女子校友会。初代会長には北村春江が就任した

■女性の社会進出と連動して

働く女性の増加に伴い、校友会での存在感も増していく。1999年の男女共同参画社会基本法施行に先駆けること1年、校友会は常任幹事会新設に当たって年齢や性別に配慮することを申し合わせた。こうして就任した初代常任幹事24名のうち、4名が女性であった。現在では本部のみならず、学部や各地の校友会でも多くの女性が重要な役割を担っており、男性中心であったかつての姿からは大きな変貌を遂げたといえる。仕事や子育てに励む女性校友たちは、現在母校で学ぶ未来の女性校友にとっても貴重なロールモデルとなるだろう。



「オール立命館校友大会2018 in 仙台」に向け打ち合わせする北海道・東北8校友会の女性校友

NEWS!

100周年応援隊に
武田美保さんが
就任しました!

シンクロナイズドスイミング(現アーティスティックスイミング)の日本代表として、3大会連続五輪出場、計5つのメダルを獲得した武田さん。学生時代の思い出や、卒業後の母校との関わりを語っていただきました。

検索 立命館 校友会 100周年

校友会設立100周年応援隊
シンクロスイマー
武田美保さん('99産社)



校友会 ネットワーク

全国の校友会が開催した行事の報告と、今後の予定です。



行事報告

2018年8月上旬～10月下旬に行われた各団体の行事の一部を紹介しています。

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumei.jp>

都道府県校友会/ 海外校友会

8/4 43名
兵庫県校友会新人歓迎会
& 異業種交流会



8/4 28名
沖縄県校友会 総会



8/5 72名
静岡県校友会 総会



8/25 35名
福島県校友会 総会



8/26 166名
岡山県校友会 総会



9/1 100名
広島県校友会 総会



9/1 9名
バンクーバー校友会



9/7 350名
大阪校友会 総会



9/8 47名
島根県校友会 総会



9/8 10名
大分県校友会
ベテランズ・パーティー



9/8 45名
熊本県校友会 総会



9/9 70名
新潟県校友会 総会



10/6 70名
千葉県校友会 総会



10/13 30名
北九州校友会 グランド
ジェネレーションパーティー



10/20 44名
秋田県校友会 総会



10/20 41名
山形県校友会 総会



10/20 12名
茨城県校友会 総会





10/27 65名
長野県校友会 総会



10/27 81名
福井県校友会 総会



10/27 66名
兵庫県校友会 総会



10/27 35名
宮崎県校友会 総会



10/27 7名
第18回
シドニー校友会の集い



学部・学系校友会

8/24 162名
建立会 総会



10/13 125名
建設会 総会



10/26 34名
岐阜県建設会 総会



地域校友会

9/1 40名
オール立命館筑後会
総会



9/2 34名
奈良県校友会南和会
総会



9/8 30名
奈良県校友会天理立命会
総会



9/9 70名
亀岡校友会 総会



9/22 15名
八幡市校友会 総会



9/29 50名
大阪いばらき立命会
総会



10/27 67名
高槻島本校校友会 総会



職域校友会

8/24 65名
ひろぎん立命会 総会



8/25 50名
立命館学園会計人会
総会



8/30 180名
京都市役所校友会 総会



10/12 67名
Rits不動産ネットワーク
総会



サークルOB・OG会

6/17 40名
応援団OB・OG洛翠会
青年部設立記念式典



8/25 17名
憲法研究会 OB会 総会



9/8 100名
創部65周年記念
理工ESS-OB会
全国大会



10/6 9名
COSMEDIA 長月会



附属校

10/13 約600名
立命館清和会 総会



TOPICS

中国・四国 ブロック会議が初開催

8月26日(日)、アークホテル岡山にて、中国・四国ブロック会議が初めて開催されました。記念すべき第1回のブロック会議は計30名が参加し、議題は、「各県校友会活動の組織強化の取り組みと課題について」「各県校友会活動における母校・後輩支援の取り組みについて」「今後の取り組みにむけた意見交換」の3つが設定され、活発な意見交換が行われました。



TOPICS

今年も 一丸となって応援!!

10月28日(日)、第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)が仙台市内で行われ、立命館大学女子陸上競技部が出場し、3位入賞となりました。校友、父母、大学教職員、学生ほか総勢約70名が応援に駆け付けました。今年は女子陸上競技部の学生が校友、父母をコースのポイントへ案内し、立命館大学ののびりを掲げて、選手たちへ熱い声援を送りました。



今後の行事予定

2019年1月下旬～2月中旬に
予定されている総会等です(判明分)

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<https://alumni.ritsumeij.jp>

校友会・グループ	日程	会場	問い合わせ先
北海道校友会 総会	1/26(土) 16:30～	ホテルライフォート札幌	中川 均 011-251-5008
東京校友会 総会	2/16(土) 13:00～	ステーションコンファレンス東京	東京キャンパス 03-5224-8188



SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
077-561-3977

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

男子・女子陸上競技部

「天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会」
女子総合3位、男子総合8位

9月6～9日、等々力陸上競技場（神奈川県）で「天皇賜盃第87回日本学生陸上競技対校選手権大会（全日本インカレ）」が開催され、女子陸上競技部が62.5点を獲得し総合3位に輝いたほか、男子も総合8位（35.5点）入賞と健闘しました。女子は、トラック種目13種目中9種目で加点し、優勝した筑波大学を抑えトップの成績（総合得点60点）。男子は、10000mで今井崇人選手（スポ健3）が4位（日本人2位）と力走を見せました。



写真提供：月刊陸上競技

男子陸上競技部

「第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走」7位入賞

10月8日、「第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走」が、出雲大社正面鳥居前（島根県）から出雲ドーム前までの6区間



第7位と健闘した男子陸上競技部

45.1kmで行われ、男子陸上競技部は、2時間15分07秒のタイムで7位入賞を果たしました。

出雲駅伝は「全国日本大学駅伝」、「箱根駅伝」とともに学生三大駅伝のひとつとして数えられており、駅伝シーズン開幕戦としての大会です。箱根駅伝常連の関東強豪校の中に割って入り、関西勢ではトップの成績を収めました。

硬式野球部

辰己涼介選手がプロ野球ドラフト会議で
楽天から1位指名

10月25日、2018年プロ野球ドラフト会議が開かれ、硬式野球部の辰己涼介選手（産社4）が東北楽天ゴールデンイーグルス（以下、楽天）から1位指名を受けました。

辰己選手は右投げ左打ちの外野手で、1回生の春季リーグから出場。今年は春季リーグでリーグ戦通算100安打を達成し最優秀選手賞を獲得、秋季リーグでは歴代2位のリーグ通算122安打を達成し首位打者となりました。大学日本代表には2回生から選出され、今年は主将としても活躍しました。

辰己選手は、衣笠キャンパスで、硬式野球部の本郷真紹部長、後藤昇監督と、楽天の石井一久ゼネラルマネージャーが交渉権を引き当てた様子をテレビ中継で見守り、その後行われた会見で「最高の評価をいただけてうれしいです」と笑顔で話しました。



辰己涼介選手（産社4）（中央）

女子陸上競技部

「第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」
杜の都駅伝」3位入賞

10月28日、「第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 杜の都駅伝」が宮城県仙台市で行われ、女子陸上競技部は3年

ぶりの優勝を狙いましたが、3位でフィニッシュしました。6区間、38.0kmのコースで行われた今大会は、全国から26チームが参加。4区の中田美優選手（スポ健2）や、最終区6区の真部亜樹選手（スポ健3）が区間賞の走りを見せましたが、優勝した名城大学と38秒差の3位でゴールしました。



1区の佐藤成葉選手（経済3）（中央） 写真提供：月刊陸上競技

ボート部

「第96回全日本選手権大会」
女子舵手無しペア 5連覇 女子エイト2連覇

10月25～28日、「第96回全日本選手権大会」が戸田ボートコース（埼玉県）で行われ、ボート部が、女子舵手無しペアで5連覇、女子エイトで2連覇という快挙を達成しました。

女子舵手無しペアの決勝レースは、5連覇がかかるプレッシャーの緊張から、予選と比べて余裕はなかったものの、コースの500m地点までにトップにたつことができ、その後は落ち着いた漕ぎで、1着でフィニッシュしました。

女子エイトは公式戦としては全日本選手権大会でのみ行われる種目であり、1000mのミドルスパートで相手を突き離し、その勢いのままさらに差を広げてゴールしました。



優勝した女子エイトの学生たち

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

立命の家実行委員会

「立命の家2018
～キミが完成させるキミだけの夏休み～」を開催

8月23・24日、びわこ・くさつキャンパス（BKC）にて「立命の家2018 ～キミが完成させるキミだけの夏休み～」を開催しました。立命の家は、課外自主活動団体が日頃の活動の成果を地域に還元する取り組みのひとつで、工作やプログラミング体験、運動教室など、参加する小学生の皆さんに楽しんでもらえるような企画を立案し、毎年夏休みに開催しています。18回目を迎えた今回は、BKCのプロジェクト団体や学術系団体など計13団体が体験プログラムを企画・協力し、応募者約210名から抽選で選ばれた小学生約130名が参加しました。





新しい時代の高等教育・研究機関を目指す 学園ビジョン「R2030」を策定

立命館学園は、2030年に学園が目指す将来像の実現に向け、中期経営計画の基本となる考え方を示した学園ビジョン「R2030」を策定しました。社会が変革する時こそ教育・研究の価値を発揮する機会であると捉え、2030年のあるべき姿を提起し、学園の使命を追求するとともに、若手教職員や外部有識者の意見を積極的に取り入れ、教育・研究機関の常識を覆す超挑戦的なビジョンを完成させました。今後このビジョンを掲げ、総合学園として未来社会を創造する先駆者を輩出するとともに、学園自らも先駆者として挑戦を続けます。



大阪北部地震復興支援・女子サッカー 4カ国いばらき国際大会を開催

9月8～16日、大阪いばらきキャンパス（OIC）にて、茨木市のホストタウン事業の取り組みと、日本サッカー協会主催による、大阪北部地震復興支援・女子サッカー4カ国いばらき国際大会が開催されました。本大会はオリンピック国内強化事業の一環であり、OICで初のスポーツの国際大会でした。オーストラリア、アメリカ、韓国、日本の代表チームが参加。本学卒業生である3選手も活躍し、国際公認試合で日本代表チームが初優勝を果たしました。



ダイバーシティ研究環境実現を推進 中間報告シンポジウムを開催

9月20日、びわこ・くさつキャンパス（BKC）のローム記念館で、2016年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（特色型）」の中間総括シンポジウム「女性研究者支援とダイバーシティ研究環境実現に向けて」を開催しました。基調講演、シンポジウムでは、女性研究者の活躍促進に向けて貴重な意見が述べられました。今後も全学一体となって、女性研究者支援やダイバーシティ研究環境実現を推進していきます。



理工学部 設立80周年 記念式典・講演会を開催

9月25日、びわこ・くさつキャンパス（BKC）にて理工学部設立80周年記念式典・講演会を開催しました。記念式典では吉田美喜夫学長がこれまでの歴史を振り返るとともに「知の拠点として、個性的・独創的な発想でさらに社会に貢献できるよう教職員一同邁進したい」と抱負を述べました。式典に続いて、記念講演、パネルディスカッション、さらに学部生・大学院生を対象にしたプレゼンテーションなどを実施。産官各界から多くの来賓が列席し、にぎやかな式典となりました。



中鉢良治国立研究開発法人産業技術総合研究所理事長の講演

グローバル教養学部開設記念 シンポジウムを開催

9月25日、日経ホール（東京都）にて、日本経済新聞社共催のもと、グローバル教養学部（GLA）開設記念シンポジウム「新しいリベラル・アーツの可能性 グローバル人材の育成を考える」を開催しました。「一生学び続けるための教養教育：『リベラル・アーツ』と『般教』の間にあるもの」をテーマに基調講演が行われた後、パネルディスカッションではリベラル・アーツやグローバル人材をめぐる多様な意見が交わされるとともに、GLAへの大きな期待が寄せられました。



2018年度 第1回全学協議会を開催

10月3日、朱雀キャンパスをメイン会場として、2018年度第1回全学協議会を開催しました。立命館大学では「全構成員自治」の考え方にに基づき、大学を構成する学部生、大学院生、教職員および大学側（常任理事会）が教育・研究、学生生活の改革・改善に主体的に関わる仕組みとして「全学協議会」をつくっています。当日は、立命館大学の3キャンパスの学生、教職員が映像・音声で参加。正課・課外を通じた学び、留学生支援を含む国際化、ダイバーシティ・インクルージョンの推進、キャンパス環境、大学院教学、学費の議題について各パートが討議し、継続的な議論を行うことを確認しました。



学校法人立命館と株式会社クレディセゾンが 包括協定を締結

10月10日、学校法人立命館と株式会社クレディセゾンは、各々の持つ人財や知識・情報などの資源を互いに活用・協力し、教育・研究、産業の発展と、これに資する人財育成に貢献することを目的として包括協定を締結しました。今後は、立命館大学が2019年4月に開始する予定の「超創人財育成プログラム」、および本プログラムの連携組織「アクティブライフ文化超創コンソーシアム」を通じて、社会に開かれた大学づくりに取り組んでいきます。また立命館大学「学生ベンチャーコンテスト」を通じて学生起業家育成や起業への取り組みも進めていきます。



林野宏株式会社クレディセゾン代表取締役社長（左）と森島朋三理事長（右）

「知ると、ツナガル、ウゴキダス。」 ポータルサイト“shiRUto”をオープン

立命館大学は、11月1日、ポータルサイト「shiRUto」をオープンしました。本サイトは、本学の教育・研究から得られる知の数々が、私たちや社会とどのように関わっているのかを「ビジネス」「テクノロジー」「グローバル」「ライフ」「スポーツ」「カルチャー」の6つの視点で紹介します。本サイトを通じて「世界や日々の生活をよりよい方向に導き、明日のビジネスを考える、新たなイノベーションを起こす、そんなきっかけを生み出す」ことを目指します。



shiRUto サイト

2019年1月 立命館総長に 仲谷善雄教授が就任

2018年12月末日をもって吉田美喜夫現総長の任期が満了になることに伴い、11月4日、総長選挙が行われました。その結果、次期総長に仲谷善雄教授（立命館大学情報理工学部）が当選し、11月30日に開催された理事会において、総長就任が正式に決定しました。

任期は2019年1月1日から2022年12月31日までの4年間で、2期まで重任が可能です。また、総長は立命館大学の学長を兼任します。



仲谷善雄 Yoshio Nakatani

Profile	
生年月日	1958年7月24日（60歳）
専門分野	防災情報システム、人工知能、ヒューマンインタフェース、認知工学、思い出工学、感性工学
最終学歴	大阪大学人間科学部人間科学科 卒業
取得学位	学術博士（神戸大学）
所属学会	ヒューマンインタフェース学会、情報処理学会、人工知能学会、計測自動制御学会、日本心理学会、日本認知科学会、日本災害情報学会、日本グループ・ダイナミクス学会、プロジェクト・マネジメント学会、システム制御情報学会、交通科学研究会
本学園の役職歴	2004年4月 立命館大学理工学研究所主事（2005年8月まで） 2006年4月 立命館大学情報理工学部副学部長（企画・研究・国際）（2008年3月まで） 2008年4月 立命館大学情報理工学部副学部長（企画・国際）（2010年3月まで） 2009年7月 立命館大学文部科学省国際化拠点整備事業推進本部副事務局長（2011年3月まで） 2010年4月 立命館大学情報理工学部副学部長（国際プロジェクト）（2011年3月まで） 2010年4月 立命館大学「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業専門プログラム開発マネージャー（2011年3月まで） 2012年4月 立命館大学総合科学技術研究機構長（2014年3月まで） 2012年4月 立命館大学理工学研究所長（2014年3月まで） 2014年4月 立命館大学情報理工学部長、情報理工学研究科長（2018年3月まで） 2014年4月 学校法人立命館理事・評議員（現在に至る） 2018年4月 学校法人立命館副総長（研究・学術情報・国際連携・男女共同参画担当）、立命館大学副学長、学校法人立命館最高情報責任者（現在に至る）

“One Step Forward”～責任を持って判断し、行動する

2040年に、立命館大学はどのような大学であるべきでしょうか？

予想や予測という言葉が立ち向かえない程の劇的な変化が、いま世界中で起きています。これまで誰も、見たことも、聞いたこともない世界が、いま立ち現れつつあります。

しかし、私は確信しています。立命館大学は、2040年に、世界を先導するにふさわしい「新しいかたちの大学」を、どこよりも先んじて達成していくポテンシャルを持っていると。これまでに見たことも、聞いたこともない、新しいかたちの大学、それを本学は目指しうし、目指すべきであると思っています。

学生・院生の卒業・修了時にいつも贈っている言葉があります。荘子の「逍遙遊」という言葉です。「自分の人生を切り拓くのは自分自身であり、様々なことに配慮しながらも、最後は自分の心に素直に従って、責任を持って判断し行動する」という意味です。このことが弛まぬ前進、“One Step Forward”につながり、やがては大きな前進を可能にします。「立命館」の名称の由来ともなっている孟子の盡心章とあわせて、私の信条といえる言葉です。

私は、立命館に奉職し、立命館に育てていただきました。大学・学園を応援くださる多くの皆さんの期待に応えられるよう、学生や校友がいつまでも母校を誇れるよう、学園創造に邁進することをお誓いいたします。よろしくお願い申し上げます。

Club × Circle

01▶ 男子陸上競技部

男子陸上競技部の2018年シーズン

自信は大きな力を生む。「第30回出雲全日本大学選抜駅伝競走」（以下、出雲駅伝）で7位と9年ぶりの入賞を果たし、「秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会」（以下、全日本大学駅伝）では、勢いそのままにクラブ歴代最高タイムで16位。監督、コーチ、選手、スタッフがそれぞれ



出雲駅伝で4区を走る原田選手（写真左）

の役割を着実に取り組んだ成果だ。そんな2018年シーズンにおいて、原田裕作選手（経済4）は、チームのキープレイヤーとして学生最後のシーズンを駆け抜けた。

原田選手は中学1年から陸上競技をスタート。高校時代は県大会でも通用しないレベルで、大学入学後も度重なる故障により理想と現実のギャップに苦しみ、チームメイトから練習態度や振る舞いについて注意を受けたことも。しかし、コーチからのアドバイスや、「進んだ道が大事ではない。進んだ道でどうするのが大事」という高校時代にかけてもらった恩師からの言葉を胸に、苦しい時期を乗り越えてきた。迎えた学生最後のシーズン。出雲駅伝では大学駅伝デビュー戦で4区を快走し7位入賞に貢献、全日本大学駅伝でも前半の重要区間で力走するなど大車輪の活躍を見せた。

「陸上競技は始めた頃からずっと好きで続けている競技。楽しむ姿勢が自らの原動力」と原田選手。一人ひとりが強くなりたい、本気で関東勢を超えたいと意気込む男子陸上競技部のこれからの走りに注目である。

02▶ 大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa

学生が子どもたちと共に地域の未来を考える

立命館守山高等学校と連携して、滋賀県守山市の大川の水質浄化や環境保全、河川環境を活用した街づくりに取り組む大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa。約20名の部員らが大学で学んだ知識を生かし、四季折々の環境学習を中心に、地域と子どもたちをつなぐ役割を担っている。企画内容は多彩で、地域に生息する生き物を観察するネイチャーツアー、長期休暇の宿題を指導する寺子屋、子どもたち自らが顕微鏡を製作し、プランクトンを観察する自由研究室などを行っている。

「活動に当たっては、地域の環境について子どもたちが持続的に学ぶサイクルをつくることを重視しています」と話すのは会長の戸簾隼人さん（生命3）。企画に参加した子どもたちの成長する姿を見たときに面白さを感じるという。

一方で、地域の方々と良好な関係をつくり、良い企画を一緒

に作り進めるための合意の取り付け方や調整については、手探りだという。地域や自治体のあり方そのものが日々変化化する中、大川を舞台に次はどんなチャレンジが生まれるのだろうか。



環境問題について学ぶ子どもたち

叙勲	危険業務従事者叙勲	文化功労者	訃報
■旭日重光章 長田豊臣氏（'65 院文） 元学校法人立命館理事長	■瑞宝単光章（消防防務） 水上康富氏（'72 経営） 元大阪市消防司令	村田吉弘氏（'74 産社） 株式会社菊の井代表取締役社長	牆内千尋氏（'65 理工） 立命館大学理工学部名誉教授、 立命館大学数物会会長
■瑞宝中綬章 松井宗彦氏（'61 法） 茨城大学名誉教授	立花佐起夫氏（'75 産社） 元大阪市消防司令長	就任 長尾敬氏（'86 経営） 内閣府大臣政務官	上田博氏（'77 院文） 立命館大学文学部名誉教授
古矢博通氏（'71 法） 元岡山県副知事	褒章	佐々木嬉代三氏（教職員校友） 立命館大学産業社会学部名誉教授、 元学校法人立命館副総長	堤矩之氏 立命館大学経営学部名誉教授
仲田稿次氏（'72 法） 元大阪高等検察庁事務局長	■黄綬褒章 清藤宏六氏（'66 文） 清藤書店代表者		
■瑞宝小綬章 平林正志氏（'61 法） 元木津地方振興局長	■藍綬褒章 田村典彦氏（'66 経済） 保護司		
針尾孝芳氏（'69 法） 元京都府立医科大学事務局長	上田盛由氏（'70 法） 民生・児童委員		
平井正義氏（'71 経営） 元前橋中央郵便局長	吉田精華氏（'75 理工） 保護司		
田中悟氏（'72 産社） 元日本郵政公社監査部門 調査業務部長	岩崎達夫氏（'79 経営） 元愛知県製本工業組合理事長		
井筒基博氏（'52 法） 元洛西高校校長（高齢者叙勲）			

2020 年東京五輪開催まで2 年を切った。気分ははや、競技会場に。まだチケット発売もされていないというのに、関心は尽きない。同年代の友と語るに今生、もう日本で五輪が開催されることはないだろうから、ライブで見納め。10 年前、北京五輪開催前の会場視察に関西プレス合同取材で現地を訪れた際、同行記者の半数が立命の後輩メンズであったことをこの編集後記に書いた。円卓で食事の際には、歳の離れた先輩にビールを注いでくれたり、体調を気遣ってくれたり、最大限の恩恵を被った。あの時の彼らは職場でそれなりのポストに就き、東京五輪では、現役で取材に駆けるだろう。私はといえば確率の限りなく低いチケット当選を心待ちにする日々。ああ、過ぎ去りし日々……。

（高橋英子）

編集室から

今号の会報は「子ども・子育て支援」が統一テーマである。総合的な子ども・子育て支援を推進する取り組みが社会全体で進められつつある中、立命館でも学生や教職員が安心して就学前の子どもを預けられる環境整備のため、2018 年9 月に衣笠キャンパスとBKC に「立命館みらい保育園」を開設した。私にも2017 年9 月に娘が生まれ、親となった今、核家族化が進む時代だからこそ、次世代の社会を担う子ども一人ひとりの育ちを社会全体で支える必要性を感じる。それと同時に、今号でご紹介したように、さまざまな角度から子ども・子育て支援に貢献する取り組みを進めておられる校友のみなさまのご活躍に触れることで、総合大学としての立命館の強みを改めて実感する。

（加藤良直）

BOOKS FOR BOOKS
～立命館の本活～

2013 年4 月から2018 年9 月末までに**5,102 名**の方々から**258,534 冊**の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。
引き続き、校友のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

💬 どのような仕組みですか？

古本を送付 → 古本の集荷・仕分け・買い取り → 図書充実のための費用へ

校友のみなさま → 株式会社バリューブックス（提携企業） → 立命館

💬 以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

● ISBN のない本

ISBN 見本 9784123456789 ISBN978-4-1234-5678-9

● 百科事典 ● コンビニコミック ● 個人出版の本
● マンガ雑誌 ● 一般雑誌

※上記の本が混入していても、費用の負担などは生じません。

💬 手続きの方法は？

① 書籍を段ボール箱に入れる。
② 電話（バリューブックス ☎ 0120-826-292）かWEB で集荷を依頼する。

※お電話の場合は右の「申込書」をキリトリ線に沿って切り取り、必要事項をご記入のうえ段ボール箱に入れてください。
※5 冊以上であれば送料は無料です。

詳しくは **WEB** をご覧ください。

お問合せ先 学校法人立命館 総務部 寄付事務局 TEL：075-813-8110（平日 9:30 ～ 17:00）

お申込みにしてのご注意

買取額は市場価格等を考慮して（株）バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申込みに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

第120 回ミニ企画展示

わたしたちも撮りたい！
～ネワールのひとびとがみる生活文化～

これまでカメラを手にすることがほとんどなかったネパール・カトマンズ盆地で生活するネワール族の高齢者たち。「わたしたちも撮りたい！」と、身のまわりのひとやものにカメラを向けて日々の生活を撮影した写真を通して、ネワール族のくらしを紹介します。

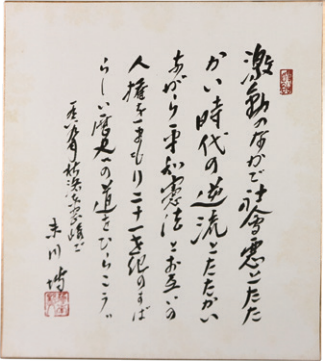


ネワールのひとびとが撮影した写真

第121 回ミニ企画展示

第24 回京都ミュージアムロード参加企画
京都青春時代パート3
—学生と運動の風景—

京都を舞台に学生の目線から時代をきりとるシリーズ第3 弾です。1968 年前後の日本では、ベトナム戦争反対、安保闘争、大学紛争など、人々がさまざまな「運動」を通じて声をあげ、社会を動かそうとしました。当時の若者たちの姿を立命館大学に関わる資料から紹介します。



末川博名誉総長の色紙 1969（昭和44）年（館蔵）

会 期	開 館 時 間	午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）
第 120 回 ミニ企画展示	休 館 日	月曜日（ただし、1/14、2/11 は開館）、1/15（火）、2/12（火）、3/22（金） ※ 12/24（月）～ 1/5（土）は冬期休館
第 121 回 ミニ企画展示	観 覧 料	一般400 円（350 円）／中・高生300 円（250 円）／小学生200 円（150 円） （ ）は20 名以上の団体料金／障害者手帳等をお持ちの方（介助者1 名を含む）は無料

立命館大学 国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL.075-465-8151 FAX.075-465-7899
URL ▶http://www.ritsumei.ac.jp/mng/er/wp-museum

立命館大学国際平和ミュージアム
常設展 特別展
校 友 招 待 券
有効期間
2018 年3 月24 日（日）まで
（校友・会友・入館料）
校友会「リツめい」
No.275